

南臺人文社會學報 2024 年 5 月
第二十九期 頁 121-147

副詞の「急に」「いきなり」「突然」についての考察

駱昭吟*

要旨

本稿では、『BCCWJ』というコーパス資料をもとに、「急に+V」「いきなり+V」「突然+V」構文を考察した。また、それぞれの使い分け条件も明らかにすることができた。その結果として、下記の4点が判明した。

1. 3者とも短期間のうちに事態が発生したという点では同じであるものの、「突然」となると、「一瞬で発生した」というニュアンスが含意される。
2. 「急に」: 前兆なしに短時間内にA事態からB事態へと変化する。
3. 「いきなり」: 既成概念を超えた事態が短期間のうちに発生したことに、受け手がすこし驚きの気持ちを表す。
4. 「突然」: 予期せぬ外部の事態が一瞬で受け手の方へ発生してくる。

キーワード: 副詞、急に、いきなり、突然、類義語研究

*駱昭吟、南台科技大学応用日本語学科講師

電子メール: chaoin@stust.edu.tw

收稿日期: 2023年2月10日; 修改日期: 2023年6月12日; 接受日期: 2024年5月9日

STUST Journal of Humanities and Social Sciences, May 2024

No. 29 pp.121-147

副詞的「急に」「いきなり」「突然」之比較研究

駱昭吟*

摘要

本稿以『BCCWJ』之語料庫資料為主，分析研究「急に+V」「いきなり+V」「突然+V」三者副詞連用修飾構造之異同。此外闡明三者之間的使用區別條件。其研究結果可以歸納成以下的四點。

- 一、三者的相同之處在於都在表現事態在短期間之內發生這一點。然而，「突然」強調「一瞬間發生」之語意。
- 二、「急に」：毫無前兆下，短時間內由 A 事態變化成 B 事態。
- 三、「いきなり」：超越既成概念之事態，在短期間內發生，動作接受方表示稍微受到驚訝的心情。
- 四、「突然」：預期外的外部事態，一瞬間朝著動作接受方發生。

關鍵詞：副詞、急に、いきなり、突然、類義語研究

*駱昭吟，南臺科技大學應用日語系講師
電子信箱：chaoin@stust.edu.tw

一、はじめに

かつて担当したクラスの学生から次の例（1）について質問を受け、筆者はうまく答えられず、立ち往生した記憶がある。

（1）*日本語を勉強して3カ月で、急にN3に合格した。（→いきなり）

急遽、同僚の日本人の先生にどうして「急に」が使えなくて、その代わりに「いきなり」を用いなければならないのか、尋ねてみた。その同僚の先生も、例（2）の場合、どれを使ってもいいが、例（1）に限っては「いきなり」という副詞しか使えないという。

（2）自転車に乗っていたら、犬が（急に、いきなり、突然）飛び出してきた。

日本人の先生は内省で三つの副詞を使い分けて用いることができるものの、われわれ台湾人にとってこの三つの副詞を中国語に訳すと、どれでも「突然」といったような言葉になるため、その使い分けの規則を区別することができない。したがって、本稿では日本語学習者のため、以上のような副詞の類義語問題を中心に「中納言」という検索アプリケーションを用いて『現代日本語書き言葉均衡コーパス』（以下、『BCCWJ』と称しておく）から、例文を抽出して3者が異なっている点について考察することとする。具体的には「急に+V」「いきなり+V」「突然+V」といった例文を全部抽出し、その使い分けの条件を明確にしたい。

二、先行研究

副詞の研究は従来活発に行われている。特にその分類に関して、山田 (1908)、北原 (1981a、b)、益岡・田窪 (1992)、仁田 (1993) (2002) などが注目される。ほかに副詞の機能や形態 (塚原 1973、渡辺 1983、国立国語研究所 1991、矢澤 2003) についても詳細な記述研究がなされている。副詞の類義語研究も少なからず見られるものの、「急に、いきなり、突然」3者についての研究は管見の限りそれほど多いとは言えない。具体的な考察を行うに先立ち、まず、それらの研究を概観する。

(一) 文化庁 (1981)

文化庁 (1981) には「急に、いきなり、突然」に関して以下のように記述されている。

(3) 急に：(そうなると思っていなかったときに) 非常に早くそうなること。またその様子。とつぜん。／「きゅうに」の形で副詞的に使うことが多い。(p. 266)

(4) いきなり：前に何も知らせや準備をしないで、突然、急に(何かをす)。 (p. 60)

(5) 突然：何の知らせもなく急に起こる様子。(p. 710)

以上の文化庁の説明には、三者の使い分けについて明確な説明がなされていないと思われる。具体的に示すと、「いきなり」の解説には、本稿の考察対象である「突然」「急に」という言葉もそのまま説明に用いられている。したがって、使い分けの研究にとって参考にする材料が不足している。

(二) 森田 (1989)

森田 (1989) では、「急に」「いきなり」「突然」に関して下記のような記述が見られる。

(6) 急に : 「急に」は、ある短い時間的、場面的な幅のなかで状態が激しく速やかに変化することを表す。「突然」がほとんど瞬間的な現象であるのと、この点が異なる。「彼岸も過ぎて急に涼しくなった」「四丁目の角を過ぎると急に辺りがひらけて、人家もまばらになる」「高校卒業のころから彼女は急に美しくなった」「父は最近急に体が弱ってきた」「急に」は、ある状態から他の状態へと早いテンポで変じていくことで、プラスからマイナスの状態へ、または、その逆方向へ激変することを表す。(p. 900)

(7) いきなり : ある状況の流れを経ずに、突然ある行為を起こすこと。行為の順序を無視して、急に状況の流れとは無関係な他の事柄に突入するため、観察者や受け手にとっては、予想もつかぬ事柄を相手が突然起こしたと映る。本来は意志的動作の動詞に係る。「いきなり」は、状況の流れとしての手順を踏まずに、一足飛びにある行為に飛び込むこと。「いきなり水に飛び込むなんて無茶だ。心臓麻痺にでもなったらどうする」「助走なしにいきなり跳んでも、遠くまで飛べない」(p. 110)

(8) 突然 : 行為・作用・現象などが前触れなしに急に起こるさまに用いる。「信号が突然赤に変わった」「突然の変異だ」「突然、辺りが真

っ暗になった」など、状態の激変「突然」が用いられる。「いきなり」と違って“予告なしに行く”の意識はない。自然現象、無意識行為、意識的な行為、いずれも可能で、ある瞬間に成立する動作・作用・現象に使う。「急に」のような、時間的幅の中で進行するあわただしい変化をあらわさない。(pp. 111-112)

以上のように森田(1989)には、この三者の違いに関して大変示唆的な見解が記されている。特に「行為の順序を無視して、急に状況の流れとは無関係な他の事柄に突入する」という説明は本研究にとって参考になるものである。

(三) 飛田・浅田(1994 : p134)

飛田・浅田(1994)には、「急に、いきなり、突然」三者の使い分けに関して以下のように指摘されている。「急に」の項目には、「事態が短時間内大きく変化する様子を表す。プラスマイナスのイメージはない。非常にはなはだしい変化が前ぶれもなく起こるという意味で、これもかなり客観的な表現である。」と述べられている。さらに、「急に」と「いきなり」「突然」との区別についても記述されている。要するに「突然」は「事態の急激な変化を誇張的に表し、驚きの暗示が強い。「いきなり」は「行為の受け手が予想していない事態が起こるというニュアンスで、驚きと衝撃の暗示が強く、意志的でない事態に関しては用いられない。」ということである。

(四) 類語例解事典(2003)

類語例解事典(2003)には、「いきなり」「突然」「急に」に関して以下のよう

な記述が見られる。

いきなり：「受付も通さずに、いきなり社長室を訪れる」「準備運動をしないで、いきなり泳ぐ」のように、手順を踏まないで途中をとばしてという意味をもつ。

突然：予想していなかったことが起こるさま

急に：「漁船の帰港とともに街は急に活気づいてきた」のように「突然」「突如」に比べて、かかる時間に多少の幅がある場合にも用いる。

この研究における「いきなり」の項目に関してほかの研究と異なり、「手順を踏まないで途中をとばしてという意味をもつ」という指摘に注目すべきである。

さらに、最近では趙・金・郭（2019）では、『NLB』というコーパスを利用して「急に＋動詞」「いきなり＋動詞」「突然＋動詞」に属する共起しやすいコロケーションの情報を抽出し、その同異性に関して調査した。本研究にとっても注目に値する研究であるものの、本稿の研究目的と異なっていることを言わざるを得ない。本稿では、「いきなり」「突然」「急に」三者の本質意味・用法を捉えることを念頭に置きながら、冒頭の例文の使い分け問題を解くことを目的としている。したがって、「急に＋動詞」「いきなり＋動詞」「突然＋動詞」における共起しやすいコロケーション情報の抽出はあくまでも研究方法として理解したほうが適切である。

以上、述べてきたとおり、これまでの研究では、「急に」「いきなり」「突然」の使い分け問題に関していくつか議論されており、ある程度研究の成果

をあげたものの、その研究の結果を直ぐにでも日本語教育の現場に応用できるようなものは既に確立されているとは言い難い。すなわち、上述した通りに、この3者の相違を論じる先行研究では、辞書類の方が多いたことが分かる。ただし、例えば、文化庁（1981）は学習者にとっては語義を大まかに理解できるものの、これらの用法を正しく用いるのは難しいと思われる。辞書は専門的な研究書ではないため、一般的に類義語の区別を詳しく分析することはできず、十分とは言えない。したがって、改めてコーパス資料を対象に細かく例文を分析する必要があることが考えられる。以上のことにより、本稿では、先行研究の結果を踏まえて将来、この研究成果を日本語教育に寄与することを期待している。

三、研究対象と研究方法

まず、コーパス検索アプリケーション「中納言」を使って表1～表3の検索法で『BCCWJ』を調査して、「急に+V」「いきなり+V」「突然+V」といった構造の例文をすべて抽出した。

〈表1〉

「急に+V」についての例文検索法

短単位検索
前方共起1 <input type="text" value="文頭から"/> <input type="text" value="1"/> <input type="text" value="語"/>
<input type="text" value="語彙素"/> が <input type="text" value="急"/>
AND <input type="text" value="品詞"/> の <input type="text" value="小分類"/> が <input type="text" value="名詞-普通名詞-形状詞可能"/>
前方共起2 <input type="text" value="文頭から"/> <input type="text" value="2"/> <input type="text" value="語"/>
<input type="text" value="語彙素"/> が <input type="text" value="だ"/>
AND <input type="text" value="品詞"/> の <input type="text" value="大分類"/> が <input type="text" value="助動詞"/>
AND <input type="text" value="活用形"/> の <input type="text" value="小分類"/> が <input type="text" value="連用形-ニ"/>
キー <input type="text" value="文頭から"/> <input type="text" value="5"/> <input type="text" value="語以内"/>
<input type="text" value="品詞"/> の <input type="text" value="大分類"/> が <input type="text" value="動詞"/>

1 「いきなり+動詞」「急に+動詞」「突然+動詞」といった構造を検索する際に、「急にラーメン食べたくなり近所の美味しいラーメン屋さんに行こうかと…」などの例文も抽出しなければならない。したがって、「5語以内」という検索条件を付けることにした。

〈表 2〉

「いきなり+V」についての例文検索法

短単位検索
前方共起 1 文頭から 1 語 語彙素 が 行成 AND 品詞 の 大分類 が 副詞
キー 文頭から 5 語以内 品詞 の 大分類 が 動詞

〈表 3〉

「突然+V」についての例文検索法

短単位検索
前方共起 1 文頭から 1 語 語彙素 が 突然 AND 品詞 の 大分類 が 副詞
キー 文頭から 5 語以内 品詞 の 大分類 が 動詞

次にその検索の結果をダウンロードしたうえで、Excel ファイルからピボットテーブルを作成する。それから「急に+V」「いきなり+V」「突然+V」における「V」の頻度表を各々表 4～表 6 に示す。ページ制限を考慮しているため、使用頻度 2 まで下記のように動詞の頻度表を作った。

〈表 4〉

「急に+V」構文における「V」頻度表（頻度 2 以上、41 語）

動詞	度数	動詞	度数	動詞	度数	動詞	度数
成る	83	居る	4	切れる	2	怒る	2
為る	32	食べる	3	腫れる	2	仕舞う	2
来る	11	思い出す	3	泣く	2	込み上げる	2
出す	11	無くなる	3	止める	2	走る	2
言う	11	吹く	3	返る	2	引き戻す	2
覚える	6	開ける	3	催す	2	増える	2
出る	6	止まる	3	変える	2	思う	2
思い立つ	5	変わる	3	降る	2	有る	2
決まる	5	始める	3	行く	2	攻める	2
感ずる	4	開く	2	動く	2	空く	2
出来る	4						

〈表 5〉

「いきなり+V」構文における「V」頻度表（頻度 2 以上、35 語）

動詞	度数	動詞	度数	動詞	度数	動詞	度数
言う	14	開く	3	割り込む	2	見る	2
立ち上がる	10	切り出す	3	現われる	2	持つ	2
行く	7	怒る	3	叫ぶ	2	成る	2

動詞	度数	動詞	度数	動詞	度数	動詞	度数
遣る	6	降る	3	痩せる	2	始まる	2
走る	5	笑う	3	蹴飛ばす	2	殴る	2
出る	4	尋ねる	3	下がる	2	踏み込む	2
聞く	4	抱き付く	3	変わる	2	押し掛ける	2
付き合う	4	話し掛ける	3	訪ねる	2	暴れる	2
来る	3	飛び出す	2	使う	2		

〈表 6〉

「突然+V」構文における「V」頻度表（頻度 2 以上、42 語）

動詞	度数	動詞	度数	動詞	度数	動詞	度数
現われる	36	話し掛ける	4	飛ぶ	3	押し掛ける	2
遣る	12	立ち止まる	4	終わる	2	起きる	2
来る	8	返る	4	有る	2	沸く	2
訪れる	8	出る	4	止まる	2	済む	2
襲う	8	変わる	4	吹く	2	泣く	2
聞く	7	思い出す	4	閃く	2	成る	2
立ち上がる	7	言う	3	走る	2	変える	2
起こる	5	叫ぶ	3	落ちる	2	鳴る	2
消える	5	出来る	3	始まる	2	怒鳴る	2
居る	5	死ぬ	3	響く	2	振る	2
降る	5	伺う	3				

「急に+V」構文では、のべ語数が 325 語であり、異なり語数は 118 語であった。これに対して、「いきなり+V」構文では、のべ語数が 203 語であり、異なり語数は 121 語であった。また、「突然+V」構文では、のべ語数が 255 語で、異なり語数については 111 語となっている。

表 4～表 6 の調査結果から現代日本語において「急に」「いきなり」「突然」について如何なる場面に用いた方が適切か考察する。本稿で行った調査の結果において多くの例文が検索されたため、全ての例文を考察するのは難業であるという判断をした。そこで、より明確にその構文の特徴を捉えるために、それぞれの構文において最も多く用いられている動詞の例文を考察することにより、「急に+V」「いきなり+V」「突然+V」構文に関してのプロトタイプ的な意味を考察する。こうした考察をすることにより、それぞれの構文に属する特徴とその使い分け条件を明らかにする。

四、考察

(一) 使用数からの考察

表 4～表 6 を見ると現代語において、最も多く使われているのは「急に+V」構文 (325 例) であり、その後は「突然+V」(255 例)、「いきなり+V」(203 例) の順番になっていることが窺える。「急に+V」構文と「いきなり+V」構文までの間に用例数の若干の差が見受けられたものの、どれも多く用いられていると言えるだろう。

(二) 「急に+V」構文のプロトタイプの意味

「急に+V」構文では「急に+なる」という例文が最も多く確認できた。こうした例文は「急に+V」構文の特徴を最も表していることが考えられる。そこで、次にこれらの例文を考察することを通して、「急に+V」構文に帰属されるプロトタイプの意味を捉えてみる。

(9) 現在求職中です。日本語教師の募集があったので面接を受けることにしました。大学では日本語学を勉強しており、ボランティアで留学生の指導もしていました。しかし本式に日本語を教えたことはなく、日本語教育能力試験も受けていません。急に不安になってきました。いまさら付け焼刃は利かないのは分かっていますが、面接にどう臨めばいいでしょうか。『Yahoo!知恵袋 2005』

(10) 今日は仕事が休みだったので家でゴロゴロしたり片付けしたりしていました。急にラーメン食べたくなり近所の美味しいラーメン屋さんに行こうかと思いましたが最近運動不足気味だし、行かないほうがいいですよ？しかもスッピンだし。皆さんならどうします？『Yahoo!知恵袋 2005』

(11) 急にお腹が痛くなり、下痢になることがあります。何かいい薬がありましたら、おしえてください。『Yahoo!知恵袋 2005』

「急に+なる」の例文を見ると、どれも「前兆なしに短時間内に A 事態から B 事態へと変化する」という抽象的な意味合いが示唆されていることが確認された。具体的に示すと、例(9)では「平然とした気持ちから何の前

兆もなく、短期間内に不安な気持ちに変化した」ということが示されている。また、例(10)(11)では、「とくに何か食べたい前兆もなく、短期間内にラーメンを食べたい気持ちへと変化したこと」と「前兆なしに短期間内にお腹の調子が普通の状態から痛い状態へと変化したこと」が表されていると考えられる。

(12) もしかしたら、悲しみに酔っていただけではないのだろうか。ドラマチックな展開に流されていただけではないだろうか。ふっと、不安にいたたまれなくなり、協子は席を立った。課長には洗面所に行くようなふりをして、事務所を出た。最近、精神状態がどうにも不安定になる時がある。急にイライラしたり、悲しくなったり、時には、妙な具合にハイテンションになり、周りを驚かせてしまうこともある。自分の身体が、自分以外の誰かの意思に操られているような気がした。(『青春と読書』唯川 恵 2002)

(13) 何ふぐかわかりませんがね。三保にふぐがいるなんてね。ちょっとびっくりです。このふぐ小さいです。大きいのもいるのかな。いろいろなお魚がいそうですね。そのあと、外海の法²にも行きました。波が荒いです。外側はね。石がごろごろしているところでちょっとアクシデントが。急に大きな波が来て、ひぎの下くらいまでぬれました。それだけならよいのですけれど、勢いのある波で、こぶ

² この「法」は原文によるものである。「法」という文字は「方」の誤植であることが推測される。

しくらいの石が勢いよく流れてきました。それが足に当たってしま
って。ものすごく痛いのです。(『Yahoo!ブログ』2008)

- (14) 「雨こんこん」ではいっしょに歌いだしそうになる。一日一小話の
はずがもっとももっととせがまれて、二週間かからないうちに読みき
ってしまった。「つづきがあるんだよ」と「モモちゃんとプー」を
持ってきた子がいて、すぐ二冊目へ読みすすむ。急に高熱を出して
ママとパパをすっかりあわてさせる「影をなめられたモモちゃん」
では、自分たちが急病になったときを思いおこして身をつまされる。
そうか、ウシオニに影をなめられると熱がでて、三日のうちに死ん
でしまうのか。(『ホンモノの学力ニセモノの学力』松本 美津枝
1989)

また、「急に+高頻度使用動詞」の場合を見てみよう。例(12)～(14)
の例文も同様に「前兆が見えなく短い時間内に A の事態から B の事態へと
変化した」ことが示唆されているため、「急に+V」のプロトタイプの意味は
「前兆なしに短時間内に A 事態から B 事態へと変化する」と規定すること
ができるだろう。

(三) 「いきなり+V」構文のプロトタイプの意味

「いきなり+V」構文のプロトタイプの意味を考察するには、「急に+V」と
同様に、まず最も多く用いられている「いきなり+言う」の例文を見てみた
い。

- (15) 能吏らしく、時間にはきわめて正確だ。応接間に通ってから、あら

ためて型どおりに挨拶し、留守を守る阿部母娘へのねぎらいを述べると、早速用件に入った。「阿部さんは何か、写真を残していませんか？」いきなり言われて、悦子は度肝を抜かれる想いがした。若月に対してではなく、そのことを予測した浅見に対して、である。「あ、あの、写真とおっしゃいますと？」母親が怪訝そうに訊いた。（『沃野の伝説』内田 康夫 2005）

- (16) 表情の撮影に主眼を置いたのは、相手と話をすることで、写される側の立場を知るためである。「過疎地の撮影に来ました。あなたの写真を撮らせてください」といきなり言われて、「はいそうですか。どうぞ」と応じてくれる人はまずいないだろう。シャッター以前に、ものを考えることの大切さを、部員たちに分かってほしかったのだ。（『英伸三の写真塾』英伸三 2000）

- (17) 「おう…もしかしたら、すまぬことをしてしまったのだろうか？そなたをさしおいてカズオにこのような品を貰うなど」真剣な顔で訊ねた。「ん、どーして？」「…ニャンは、カズオと好き合っているのだろうか？」「エッ!？」いきなり言われてニャンは頬をサッと染め、言葉に詰まる。「アイヤ、それは…その…エート…」「フフ、隠さずともよいではないか、友だちならば。—こう見えてもそれほど鈍感ではないつもりでな、そなたらの眼やしぐさ、物言いの端々から、言われずともすぐにわかった」「そ、そオ？ アハ、ハハハ、まいったあるナ…」（『破界戦士』丘野ゆうじ 1994）

「いきなり＋言う」の例文を見てみると、上記の例文のようにその多くが「能動文」ではなく、受身形の「言われる」という形で用いられている。周知のとおり「受身表現」は多くの場合、主体にとっての「迷惑」の意味を伴う。それ故、これらの文も受身の「言われる」を用いることで、社会の既成概念・順序を超えた速さに驚かされたことを表すということが考えられる。換言すれば、受身表現が使われることにより、こうした構文における意味の特徴が反映されていることが考えられる。

すなわち、例（15）～例（17）の構文では、どれも、「社会の既成概念を超えた事態が瞬時に発生したことに、受け手がすこし驚きの気持ちを表す」という意味特徴が捉えられた。言ってみれば、例（15）では、常識的にはあるべきなんらかの順序を飛び越え、いきなり「阿部さんは何か、写真を残していませんでしたか？」という質問がされ、受け手がその事態が発生した順番の速さに「度肝を抜かれる」ほど驚いたということが叙述されている。また、例（16）と例（17）も同じ解釈が成り立つと考えられる。具体的に示すと、例（16）では、社会の既成概念なら普通なんらかの説明をしたうえで、依頼すべきである。しかし、その順序を飛び越えていきなり「過疎地の撮影に来ました。あなたの写真を撮らせてください」ということを相手に伝えたら、おそらく相手は驚いてすぐ「はいそうですか。どうぞ」と応じてくれないうまいだろうということが含意されている。例（17）においても、いきなり「…ニャンは、カズオと好き合っているのだろう？」という普通非常識の質問とされている事が尋ねられて、「「エッ!？」と「頬をサッと染め、言葉に詰まる。」といったように内心の驚きの現れであることが窺える。

- (18) 「…な、に？先輩」見ると律の顔は、暑さのせいばかりでなく、うっすらと赤みが差している。律は落ち着かなげに視線をそっぽに飛ばしたかと思うと、「あ、汗、かいてて…、あの、シャワー浴びるから！」いきなり立ち上がり、隼人を置いて屋根裏部屋から出て行ってしまった。「…なんだ…？」まるで逃げ出すかのような津の態度に、隼人はぼかんとするばかりであった。（『あなたのすべてがいとしくて』日生 水貴 2002）
- (19) いま、彼と同棲する話をしていて、9月から出来ればしたいとお互い話しています。彼には同棲する前に一度私の両親にちゃんと会ってもらって、両親に同棲に賛成してもらいたいです。そこで彼を紹介するとき、今度彼を連れていくから会ってほしいと先に親に言いますか？いきなり行きますか？レストランなどで待ち合わせして会いますか？みなさんの体験談や、シチュエーションを聞かせて下さい！！（先程、ちがうカテゴリーで質問しましたが、ここに適しているカテゴリーを見つけたので再度質問させて頂いています。）今度連れて行くからと前置きして、それから連れて行ったほうがいいと思います。いきなり行くと、彼の良識を疑われてしまうと思います『Yahoo!知恵袋 2005』

例(18)では同じくある不思議な行動がいきなり起きたのを目撃して驚いたことが示されている。一方、例(19)は娘が両親に彼と同棲することを伝える例文である。普通なら両親に説明する前にあらかじめ彼の存在を言って

おくのが筋であるが、「いきなり行く」という言い方では、「社会の既成概念・順序を超えて、両親に驚かせる可能性がある」という含意がきわめて強いと考えられる。以上の分析により、「いきなり+V」のプロトタイプの意味は「社会の既成概念を超えた事態が短期間のうちに発生したことに、受け手がすこし驚きの気持ちを表す」と定義していいだろう。

(四) 「突然+V」構文のプロトタイプの意味

「突然+V」に関しては本稿の調査で、「突然+現れる」についての例文が最も多く検索され、全部で 36 例あることが分かった。そのため以下では、まず、「突然+現れる」を中心に「突然+V」構文のプロトタイプの意味を考察する。

(20) そういった点からもこの作品が SD 部門の金賞にふさわしいものであると言えるでしょう。銀賞「MSM-と ZOCK」及川晃弘（北海道・三十八歳）ディオラマでもなく、ヴィネットでもなく、スタチュー（置物）として製作してみました。突然現れたゾックにびっくりしたウミガメが逃げ出している、という感じです。ゾックは全体のバランスを見ながらうるさくならない程度に市販パーツやピンパイプ等でディテールを追加しました。（『HOBBY JAPAN』実著者不明 2003）

(21) 「そいつは、九十歳近くになってからの話だ」耳もとで、冷酷な声が響いた。どこからともなくニックが現れた。この砂浜はずっと遠くからも見えることを、ジョアンナは思い出した。彼女はまだマーティンの腕の中にいた。ニックが突然現れたことにびっくりして、体

を離すのも忘れて立ちつくし、驚きの目でニックを見上げるだけだった。ニックの顔からはまったく心の中が読めなかった。(『夜ごとの夢』パトリシア・ウィルソン(著)/竹本 祐子(訳)2003)

- (22) 三宮に戻った時には、もうすっかり暗くなっていました。はしゃいだ気分のまま、ホテルに向かって歩いていると、大きな宝石店が店仕舞いを始めたところでした。その店で素敵な真珠のイヤリングを見つけてしまい、私はどうしてもそれが欲しくなった。雨宮さんに話すと、彼女も同じものを欲しがった。突然現れた二人の上客に、従業員たちが目を白黒させているのがおかしかった。あと払いで構わないかと訊ねると、蝶ネクタイをした店長がやってきて、三秒間ほど私たちを観察しました。(『水曜の朝、午前三時』蓮見 圭一(著)新潮社 2005)

「突然+現れる」という構文では、ほとんど例(20)～例(22)のように「予期せぬ外部の事態が一瞬で受け手の方に発生してきた」というニュアンスが読み取れる。具体的に説明すると例(20)では、「ゾック」が一瞬で目の前に現れてきたことが予想できなかったため、「ウミガメ」はその場面に「びっくりした」ということである。また例(21)では、「ニックが突然現れてきた」ことが予想できなかったため、「びっくりして、体を離すのも忘れて立ちつくし、驚きの目でニックを見上げるだけだった」という結果になった。例(22)では、従業員たちは二人の上客が一瞬で現れてきたことについて予想できなかったため、目を白黒させているという場面が示されている。

次に「突然+高頻度使用動詞」の構文も考察してみる。

(23) ある日突然、僕の言うことを、あるいはあなたの言うことを、誰一人として信じてくれなくなるかもしれないんです。そういうことは突然起こるんです。ある日突然やってくるんです。いつもそのことを考えています。この前はそれがなんとか六ヶ月で終わりました。でも次にもう一度同じようなことが起こったとき、それがどれだけ長く続くのかは誰にもわからないんです。この次自分がどれくらいそれに耐えられるかどうか、まったく自信が持てないんです。そのことを考えると、ときどき本当に怖くなります。(『レキシントンの幽霊』村上 春樹 1996)

(24) 人生を変えるほどの出来事ってどんな事ですか？それは突然訪れるものですか？それが訪れるには何をしたらいいのでしょうか？暗中模索のごとく、何もみえなくなりました。アドバイスをお願いします。それは突然訪れます。まったく突然。。私の場合は暗中模索どころか、会社も辞めてどん底状態で突然恋がやってきました。何をしたら・・・自分を磨くことです。いろいろな事に挑戦してはいかがですか？『Yahoo!知恵袋 2005』

(25) わたしもマニュアルです。両手ばなしはもともとできません。わたしの場合、耳鳴り（左）→4日後くらいに発作→仮回復→発作→仮回復→発作→本回復といった感じです。もともとストレスを感じないほうですが、頭で感じていないだけで、気づいたときには体はストレス絶頂！となっているようです。発作は突然くるから、外出先

とか1人のときとか不安ですよ。わたしは耳鳴りが始まったら、めまい止めを持参するようにしています。『Yahoo!知恵袋 2005』

以上、「突然+V」という例文を見ると、「突然+現れる」は36例、「突然+やる」は12例、「突然+来る」は8例、「突然+襲う」は8例、「突然+聞く」7例あり、全部で71例もあることが窺えた。これらの構造を見ると、「突然」の後に接続する動詞として「動作が受け手に向かってかかってきた」といったような方向性の意味がいが含まれていることが考察された。また、これらの例文数は「突然+V」全体の例文数における3分の1弱を占めているということから、「突然+V」構文のプロトタイプの意味を「予期せぬ外部の事態が一瞬で受け手の方に発生してきた」といったように規定するのが妥当であると言えよう。

(五) 「急に、いきなり、突然」 + 「来る、言う、出る」についての分析

表4～表6を見ると、「急に、いきなり、突然」3者の副詞は共通して「来る、言う、出る」3つの動詞と共起している例文が多く見られる。それをまとめると表7のとおりになる。

〈表7〉

共起している動詞（来る、言う、出る）頻度表

動詞	急に	いきなり	突然
来る	11	3	8
言う	11	14	3

動詞	急に	いきなり	突然
出る	6	4	4

このように「急に、いきなり、突然」3者の副詞が「来る、言う、出る」3つの動詞と共起していることはおそらく「急に、いきなり、突然」の後に動詞「来る、言う、出る」が接続する場合、置き換えやすくなることを物語っていると考えられる。ただし、4.1~4.3 までの考察から、置き換えられても三者の間に何らかの語感が異なっていることが予測できよう。これに関して、前掲の例(13)を再掲し、その使い分けを考察する。

(13) 急に大きな波が来て、ひざの下くらいまでぬれました。

いきなり (○)

突然 (○)

まず、例(12)の「急に」を「いきなり」「突然」に置き換えても自然の文になることが思われる。ところが、「急に」が用いられることにより、文の意味としては前兆なしに「海が穏やかな状態」から「大きな波が来た状態」に変化することに重点が置かれているだろうと思われる。一方、「いきなり構文」の場合、以前の経験、既成概念による予測から大きな波が来ることはないと判断したが、予想外の波が来たことで若干驚きの含意があることを表すときに用いられる。これに対して「突然+V」構文の場合、予想できなかった大きな波が一瞬で受け手の方に起きたときに用いられることが考えられよう。

次に前掲例(1)(2)を再掲し、検討することとする。

-
- (1) *日本語を勉強して3カ月で、急にN3に合格した。(いきなり)
- (2) 自転車に乗っていたら、犬が(急に、いきなり、突然)飛び出してきた。

例(1)では、「A状態からB状態へと変化する」ことに重点が置かれているというわけではなくて、あくまでも「社会的既成概念」を超え、「途中をとばした」速さで合格したことを示すため、「いきなり」が用いられるべきであるということが考えられる。また、例(2)で、三者とも使える理由としてはおそらく例(13)の説明と同じ解釈が通用するのではなかろうと考えられる。

五、おわりに

以上のように、本稿では、『BCCWJ』というコーパスの資料を用いて、「急に+V」「いきなり+V」「突然+V」構文を考察し、それぞれの使い分け条件を明らかにした。その結果として、下記の4点が判明した。

- ①三者とも短期間のうちに事態が発生したという点では同じであるものの、「突然」となると、「一瞬で発生した」というニュアンスが含意される。
- ②「急に」: 前兆なしに短時間内にA事態からB事態へと変化する。
- ③「いきなり」: 既成概念を超えた事態が短期間のうちに発生したことに、受け手がすこし驚きの気持ちを表す。
- ④「突然」: 予期せぬ外部の事態が一瞬で受け手の方へ発生してくる。

このように、本稿では、「急に+V」「いきなり+V」「突然+V」構文についての意味特徴を明らかにしたものの、コーパスの資料から抽出した例文を全部分析するには至らなかった。その点に関して今後の課題としたい。

参考文献

- 北原保雄 (1981a) 『日本語助動詞の研究』 大修館書店
- 北原保雄 (1981b) 『日本語の世界 6 日本語の文法』 中央公論社
- 国立国語研究所編 (1991) 『副詞の意味と用法』 国立国語研究所
- 趙聖花・金珽実・郭俊海 (2019) 「類義語「いきなり」「突然」「急に」の使い分け: コーパスから見たコロケーションの特徴」『九州大学留学生センター紀要』 27、九州大学留学生センター、pp. 21-28
- 塚原鉄雄 (1973) 「修飾語とは何か」『品詞別日本文法講座 5 連体詞・副詞』 明治書院
- 仁田義雄 (1993) 「現代語の文法・文法論」『日本語要説』 ひつじ書房
- 仁田義雄 (2002) 『副詞的表現の諸相』 くろしお出版
- 益岡隆志・田窪行則 (1992) 『基礎日本語文法改訂版』 くろしお出版
- 矢澤真人 (2003) 「副詞の機能」『朝倉日本語講座 文法 I』 朝倉書店
- 山田孝雄 (1908) 『日本文法論』 宝文館
- 渡辺 実 (1983) 『副用語の研究』 明治書院

辞書類

- 『類語例解辞典』 (2003) 小学館 (CASIO 電子辞書 EX-word ATAPLUS 10)
- 飛田良文・浅田秀子 (1994) 『現代副詞用法辞典 新装版』 東京堂出版
- 文化庁 (1981) 『外国人のための基本語用例辞典』 大蔵省印刷局
- 森田良行 (1989) 『基礎日本語辞典』 角川書店

